

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 15 日現在

機関番号： 14101
 研究種目： 基盤研究 (C)
 研究期間： 2010 ～ 2012
 課題番号： 22590466
 研究課題名 (和文) 患者中心の医療と患者満足度、アドヒアランス、そして健康アウトカムの関連
 研究課題名 (英文) relationship between patient-centered medicine and patient satisfaction, adherence, and health outcomes
 研究代表者
 竹村 洋典 (TAKEMURA YOUSUKE)
 三重大学・大学院医学系研究科・教授
 研究者番号： 00335142

研究成果の概要 (和文) : 患者中心の医療が患者満足度を向上することが明らかになった。一方、満足度とアドヒアランスとは必ずしも関連がなく、アドヒアランスと関連がある健康アウトカムも疾患特異性があった。結局、患者中心の医療は脂質異常症や不眠症では正の相関があったが、患者中心の医療は高尿酸血症とは負の相関があるなど、疾患特異的な関連があることが明らかになった。しかしいずれにせよ、患者中心性のある医療は、患者満足度を向上させた。

研究成果の概要 (英文) : There is positive relationship between patient centered medical method and patient satisfaction. On the other hand, patient satisfaction has no significant relationship with adherence (adherence of treatment). And adherence for limited disease treatment (hypercholesterolemia) has significant relation with improvement of the treatment but adherence for other disease has not. Finally, if physicians, with patient centered medical method, care patients with hyperuricemia, its improvement are significantly low although patient satisfaction is significantly high.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	500,000	150,000	650,000
2011 年度	900,000	270,000	1,170,000
2012 年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	1,900,000	570,000	2,470,000

研究分野：総合診療

科研費の分科・細目：境界医学・医療社会学

キーワード：医療の質

1. 研究開始当初の背景

家庭医・総合医が崩壊しつつある地域医療の再生のキーと言われている。家庭医・総合医の特性は、単に包括的な医療やチーム医療に長けているだけでなく、患者に最も接する位置にいることにより患者の個別性を重視する医療、「患者中心の医療」を心がけていることがあげら

れる。患者の世界まで降り立って、ケアを行うことで、アドヒアランスを向上し、もって血圧やコレステロール値などの健康アウトカムを改善する効果が期待されている。スチュアートらの研究では医療の患者中心性が患者満足度や薬剤に対するアドヒアランスを向上し、また、主観的健康を改善することが実証されている¹。この研究が患者

中心の医療のランドマークスタディーとなっている。一方で、文化の異なる日本では同様の研究はほとんど存在しない。家庭医・総合医が重視する機能の一つが患者中心性にあるとすると、その有効性の検証は非常に重要と考える。申請者は、これまで医療の患者中心度調査票と患者満足度調査票を作成した。両調査票とも、その妥当性と信頼性を明らかにしている^{2,3}。したがって、患者中心の医療が患者満足度やアドヒアランス、そして血圧やLDLコレステロールなどに与える影響を調査する基礎は出来上がっている。

参考文献

1. Stewart M, et al. The impact of patient-centered care on outcomes. J Fam Pract 2000; 49:796-804.
2. Takemura Y, et al. Development of a questionnaire to evaluate patient satisfaction with medical encounters. Tohoku Exp Med 2006; 210: 373-381.
3. 竹村洋典, 等. 外来で使用できる医師についての患者満足度調査票. 日本医事新報 2007; 4324: 101-103.

2. 研究の目的

患者中心度と患者満足度、アドヒアランス、血圧、LDL コレステロール、HbA1C、尿酸値などの改善度などのデータを測定して、患者中心の医療が患者満足度、アドヒアランスや健康アウトカムに与える影響を明らかにする。

3. 研究の方法

(1)【:医療の患者中心度と患者満足度、患者アドヒアランス、ヘルスアウトカムの関連についての実証研究】

研究期間:

平成 22 年 4 月～平成 24 年 10 月

研究デザイン:

横断的研究

対象:

三重大学医学部附属病院・総合診療科外来患者、津市、亀山市、名張市の総合病院・内科外来患者、津市内内科系診療所外来患者の約 3,000 人

測定項目:

患者 demographic data

医療の患者中心度 (医療の患者中心度調査票による)

患者満足度 (患者満足度調査票による)

患者の治療へのアドヒアランス (ピル・カウント)

健康アウトカム (血圧、LDL-コレステロール値、HbA1c 値、尿酸値、患者の不眠度など)

統計解析方法:

医療の患者中心度、患者満足度、アドヒアランス、または健康アウトカム (血圧、LDL-コレステロール値、HbA1c 値、尿酸値、患者の不眠度) の各々について、関連をみる。関連は回帰分析によって検定。また年齢、性別、内服薬などによる影響を補正するために SAS の GLM プロシージャなどによって検定。

(2)【患者中心の医療を教育するための方略と評価方法の開発】

研究期間:

平成 24 年 7 月～平成 25 年 3 月

開発者:

これまでにコミュニケーション教育に深く関わってきた教育関係者数名

開発内容:

患者中心の医療を医学部学生と初期、後期研修医に教育するために必要な方略と評価方法。具体的にはビデオによる振り返り方法、ポートフォリオ、患者からのフィードバック(患者への質問票)、そして指導医からの効果的なフィードバック方法、そして患者中心の医療の生涯学習を可能とする reflective practitioner の養成方法を開発する。

4. 研究成果

(1)【:医療の患者中心度と患者満足度、患者アドヒアランス、ヘルスアウトカムの関連についての実証研究】

患者中心の医療を多く行う医師に診てもらっている患者は、有意に患者満足度が高かった。しかし、患者満足度が高くてアドヒアランスが必ずしも向上するわけはなかった。ただ、患者の主観的なアドヒアランスについては、患者満足度が高いと主観的アドヒアランスが有意に高かった。また、コンプライアンスが高いと脂質異常症の改善は、有意に高かった。さらに、患者中心度が高い医療を行っている医師に診てもらっている患者は、不眠については、そうでない医師に診てもらっているより、改善が大きかった。一方で、高尿酸血症においては、患者中心度が高

い医師に診てもらっていると、有意に改善が低かった。にもかかわらず、このような患者においても、患者満足度が高いのはとても興味深いと思われた。

(2)【患者中心の医療を教育するための方略と評価方法の開発】

ビデオによる振り返り方法、改訂版ポートフォリオ、患者からのフィードバック(患者への質問票)、そして指導医からの効果的なフィードバック方法を確立した。さらに、患者、医療従事者(研修医を含む)、そして学生(医学生、看護学生)とともに、タウンミーティングを名張市、津市などで実施することによって、患者中心性を実際に即した形式で、学生や研修医に学習させることができた。これらによって、患者中心の医療の学習(生涯学習を含む)を可能とする reflective practitioner の養成方法を開発できた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

- ① 竹村洋典、日本で必要とされるジェネラリストとは?、ドクターズマガジン、査読無、5月、2013、1
- ② 竹村洋典、金澤一郎、長谷川仁志、林純、総合的な診療能力を持つ医師の役割と養成、日経メディカル、査読無、5月、2013、4-9

[学会発表] (計14件)

(1) 国際学会

- ① Yousuke Takemura、Does patient-centered care improve sleep status?、WONCA (国際家庭医・総合診療医学会)、2013年6月27日、ブラハ(発表確定)
- ② Yousuke Takemura、Does patient-centered care really improve health?、WONCA (国際家庭医・総合診療医学会)、2012年5月26日、韓国

(2) 国内学会・招待講演

- ① 竹村洋典、病院総合医の現在と未来、日本病院総合診療医学会、2013年3月2日、岐阜
- ② 竹村洋典、最近家庭医療・総合診療の言葉を聞きますか—日本発のエビ

デンスから眺めると一、三重大学第3内科同門会、2013年2月10日、津、三重

- ③ 竹村洋典、日本発のエビデンスから探る、日本プライマリ・ケア連合学会、生涯教育セミナー、2012年11月10日、大阪
- ④ 竹村洋典、日本が求めるべき家庭医療とは—日本発のエビデンスから眺めると一、大分家庭医療研究会、2012年12月5日、大分
- ⑤ 竹村洋典、日本における「家庭医療」の原則とこれから、みどり病院学術集会、2012年10月6日、岐阜市
- ⑥ 竹村洋典、日本の家庭医療—地域住民に必要なケアを考える—、紀南地区勉強会、2012年10月5日、紀南、三重県
- ⑦ 竹村洋典、地域で求められる「家庭医療とは」、桑名市救急の勉強会、2012年6月28日、桑名市、三重県
- ⑧ 竹村洋典、みんなのための「家庭医療」—日本における家庭医療のありたか—、弘前大学家庭医療学セミナー、2011年11月25日、弘前
- ⑨ 竹村洋典、家庭医療学の視点で行動科学の世界を旅する一人々の行動から、医師の行動へ—、順天堂大学衛生学講座特別講演、2010年12月18日、東京
- ⑩ 竹村洋典、家庭医療の視点で行動科学の世界を旅する一人々の行動から、医師の行動へ—、三重大学公衆衛生学セミナー、2010年12月3日、津
- ⑪ 竹村洋典、行動科学の世界を旅する一人々の行動、医師の行動がいかにか健康に影響するか—、県立福島医大家庭医療セミナー、2010年10月29日、福島
- ⑫ 竹村洋典、人間の行動が健康に影響するか—患者の行動の場合、そして医師の行動の場合—、三重県医師会総会特別講演、2010年7月4日、津

[図書] (計1件)

- ① 竹村洋典、シナジー、脳とこころのプライマリケア 3こころと身体との相互作用、2013、531-539

[その他]

(1) 地域での活動

- ① 竹村洋典、白山町の人々が健康であるために、美杉町民生委員研修会、2013年3月21日、津市
- ② 竹村洋典、白山地域の人々が健康でいられるために—医療に求められること、行政に求められること、そして住民に求められること、ともに考えよう!白山地域

の医療、2013年1月12日、津市

- ③ 竹村洋典、いのちをまもるためにできること、三重県年金受給者協会、2012年10月18日、津市

(2) 学生報告書

- ① 池田麻衣、竹村洋典、患者満足度とその患者の不眠についての研究、2012年9月、津市、三重大学医学部医学科研究室研修
- ② 牛田英里、竹村洋典、医療の患者中心度と患者の睡眠との関連について、2012年9月、津市、三重大学医学部医学科研究室研修
- ③ 日々亭、竹村洋典、医療に対する患者満足度とその患者の服薬コンプライアンスとの関連についての研究、2012年8月、津市、三重大学医学部医学科研究室研修
- ④ 岡田彩夏、竹村洋典、患者満足度と性別、年齢の関連についての研究、2012年8月、津市、三重大学医学部医学科研究室研修
- ⑤ 金森春奈、竹村洋典、患者の満足度と主観的／客観的コンプライアンスの関連について、2011年12月、津市、三重大学医学部医学科研究室研修
- ⑥ 山崎加奈枝、竹村洋典、患者中心の医療と患者満足度の関連について、2011年12月、津市、三重大学医学部医学科研究室研修
- ⑦ 白石和寛、竹村洋典、コンプライアンスと健康アウトカムについて、2011年12月、津市、三重大学医学部医学科研究室研修
- ⑧ 渡辺麻里、竹村洋典、医療の患者中心性と服薬コンプライアンスの関連について、2011年12月、津市、三重大学医学部医学科研究室研修
- ⑨ 増田高将、竹村洋典、服薬紺ブライアンスとLDLコレステロールの関連について、2010年10月、津市、三重大学医学部医学科研究室研修
- ⑩ 影山拓海、竹村洋典、患者の満足度とコンプライアンスとの関連について、2010年10月、津市、三重大学医学部医学科研究室研修
- ⑪ 内田絵里香、竹村洋典、医療の患者中

心性と尿酸値の改善との関連について、2010年10月、津市、三重大学医学部医学科研究室研修

- ⑫ 村瀬友哉、竹村洋典、患者中心の医療と患者満足度の関連に関する研究、2010年10月、津市、三重大学医学部医学科研究室研修

6. 研究組織

(1) 研究代表者

竹村 洋典 (TAKEMURA YOUSUKE)
三重大学・大学院医学系研究科・教授
研究者番号： 00335142

(2) 研究分担者 なし

(3) 連携研究者

横谷 省治 (YOKOYA SHOJI)
三重大学・医学部附属病院・助教
研究者番号： 70278951

堀端 謙 (HORIBATA KEN)
三重大学・医学部附属病院・助教
研究者番号： 90508524